
それでもあんたが・・・

桜桃

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

それでもあんたが・・・

【Nコード】

N0984N

【作者名】

桜桃

【あらすじ】

実は、初めての『平和』作品だったり・・・
和葉と新一の会話が入っております。
あんまり会話がないんじゃないかな。
と思いきや、平次が！！てきなかんじです。
どうぞ、ご覧下さい。

「もう、平次なんか知らんわ！アホ！！
小説と結婚したらええねん！！」

「ちよ、まで、和葉！！」

ボタン！！！！！！！！！！

なんやの、なんやの、なんやの!!!

平次のあほんだらー！！！！！！

東京

ピンポーン。

はい。

「あ、工藤君？蘭ちゃんいてはる？」

『ああ、あと、40分くらいで来るけど?』

「さやか・・・」

『上がる？蘭と話がしたいんだろ？』

「で、でも、探偵事務所行けば会えるし。」

『今、おっちゃん荒れてるから行かないほうがいいと思うけど。』

「・・・上がらせてもらいます。」

『はい。じゃ、いま開けるから。』

ほんま、工藤君は優しいなあ・・・

平次とは大違いやで。

あんの、推理ドアホが！

「はい。」

「おじゃまします。」

工藤君は居間へといれてくれて、紅茶を出してくれた。

平次やったら紅茶やのうて、缶ジュース。

出してくれるだけありがたいんやけど・・・

「ありがとう。」

「いえいえ。で？服部がまたなんかした？」

「ええ！わかってまう？」

「和葉ちゃんが1人で来るのは大抵服部のことだから。」

「なんか、平次より工藤君のほうがあたしのこと知ってそうやな。」

「そんなことないって。服部のほうが知ってる。」

「そうやるか？」

「で？どうした？」

「そう！あんな、平次、弁当作って家に来いゆうてな、誰もがデートや思うやる？」

「ああ。」

「したら、あんのバカ、自分のお昼ご飯がないから、作って来い言っただけ。

あたしに、弁当作らせて持ってきたら、邪魔もん扱い。

むっしょーにはらたってはらたって、一発ぶん殴って出て行ったわ。」

「さっすが和葉ちゃん。」

「あたしをなんだと思ってんやろ。あたしはあんたのお母さんでも家政婦じゃないわ！って感じやわ。」

「・・・」

「工藤君？」

「え？ああ・・・俺もさ、蘭に一回言われたんだよ。家政婦じゃないって。」

「工藤君が？」

「つい、やっちゃまうんだよな。」

蘭が、俺の隣にいるのは当たり前だと思って、ほったらかし状態にしちまう。」

工藤君でもそういうことが・・・

「失敗ばかりだよ。」

いつもの頭の回転も蘭が絡むと鈍くなる。

俺の世界、あいつ中心に回ってるのに、それを全然あいつはわかってねえし・・・」

うわぁ〜めちゃくちやかっこええ〜！

平次の場合、あたしは、おかんかい！ってかんじやもん。

「きつと、服部もそう思ってるぜっ。」

「ないない。」

「わからないって。ちゃんと話してこいよ。
言いたいこと、ちゃんとずっとかねえと、いつ、後悔すっかわか
らねえし。」

「工藤君・・・」

「そうや・・・」

コナン君になったとき、痛いほど後悔したんは他の誰でもない。

工藤君なんや。

「さ、駅まで送るよ。」

「ありがとう。」

あれ、工藤君の歩調ってこんなに遅かったやろか。

平次と歩くときの歩調と違う・・・

もしかして、あわせてくれとる？

でも、なんか、歩きづらいな・・・

「あ、和葉ちゃんはもうちょっと早いほうがいい？」

「あ、えっと・・・ちよつとな・・・」

「そつか。蘭とはやっぱ違うんだな。」

「あたりまえやろ。」

く 駅く

「ありがとう。工藤君。そろそろ蘭ちゃんくる時間やろ？」

「大丈夫。カギは渡してるし。」

「合鍵かいな。見せ付けてくれるわ。」

「和葉ちゃん、服部に似てきたな。」

「やめてーな。あんな奴と！」

「冗談冗談。」

「ほな、今度は蘭ちゃんにもあづさかい！」

私は大阪へと向かった。

「和葉！」

「なんやの。」

「心配したで！」

「小説の心配ばかりしてるあんたが？」

つい、憎まれ口。

「あほ、お前が一番や。」

あたし、いま、絶対顔が真っ赤や。

たしかに、工藤君みたいに紳士的な優しさは憧れるし、

平次にやつてもらいたいとも思う。

でも、

あたしにはあんたとバカな言い合いしてて楽しい。

工藤君とあんたを比べると平次は不利やろうけど、

それでもあたしはあんたが

一番やで♪

（後書き）

こんなふうに思ってくれてたらいいな
とっております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0984n/>

それでもあんたが・・・

2010年10月28日04時04分発行